

平成30年度 兵庫県立人と自然の博物館協議会

日時 平成31年3月8日（金）14:00～15:45

場所 県立人と自然の博物館 大セミナー室

1 開会

2 館長挨拶

3 議事

(1) 報告事項

ア 「ひとはくの概要」について

イ 「ひとはくの事業活動」について

(ア) 中期目標の達成状況

(イ) 恐竜化石関連事業

(ウ) レガシー継承・発信事業

(2) 協議

ア 「平成31年度 ひとはくの主な事業」について

イ 「新収蔵庫」について

4 質疑・意見

・博物館

今年度末、準備室時代から在任していた最後の研究員が、定年を迎える。この博物館を出だしから知っている研究員が、当館からいなくなる。非常に名残惜しい。

皆さま方のおかげで、博物館としての運営をしっかりといただいている。おかげで、今いろんな施設との連携、例えば佐用町の昆虫館だとか、有馬富士公園や自然学習センター、南あわじのうずしお資料館、新温泉町の但馬牛博物館など、県下各地の施設と連携出来るようになり、また盛んになっている。

さらには、兵庫教育大学との連携協定、まもなく湊川短期大学とも協定を締結する予定である。当館は博物館活動だけでなく、社会的活動にも力を入れている。

ところが、当館は開館から30年近く経つが、ハード面は作ったときのままである。唯一変わったのが、トイレである。使った方は見ていただいたかと思うが、研究員の知恵がたくさん詰まっている。トイレの前に、お母さん方が荷物を置けるような戸棚の設置など、30年博物館活動をすると、これくらいのことは出来るようになる。そのうちトイレのみならず、本館や収蔵庫棟にもっといっぱい良いことが出来るよう、期待しているところである。

いろいろと憂慮を抱きながら30年、博物館をやってきた。これから、新たな人々が新たな博物館を運営するチャンスかもしれないので、今日は皆さまから、忌憚のない意見をいただきたい。

- ・委員

セミナーを数多く開催しているが、インターネットで配信する計画や実績はないか。私自身がテレビを見ず、ネット配信のテレビや動画をよく見る。また私の周りの若い世代を中心にスマート化している。現地に行かないと見られない博物館や美術館のようなアナログデバイスも、レンタルショップのように、ある層には需要があり活路はあると思うが、医師の立場から言うと、ALS（筋萎縮性側索硬化症）の方はパソコンを使うのが普通になっているので、そういう障害を持つような方が、何かを知りたいというニーズのために、インターネットを活用した対応が出来ないものかと思う。

セミナーも、見たい聞きたい物はたくさんあるが、それを1回限りに終わらせずに、動画にアップして收藏していき、知の財産として活用していくことはできないだろうか。

また、インターネットは世界と繋がっていて、外国の方も日本の物に着目している今だからこそ、世界に向けて発信する手段として、その活用をどう考えているか。

- ・博物館

現在、インターネットによる配信は考えていない。また、技術的に可能かは検討課題である。先ほど委員に提案いただいた、たくさんの方にセミナーを聞いていただく、いろんな考え方を共有・理解していただくことは、博物館にとって大事なテーマだと思う。

ただ、双方向のやりとりや実際に体験してもらうことを大切にしているので、それらとの兼ね合いをどうするかが課題であり、検討していきたい。

- ・委員

博物館に行く時は下調べしてから行く人もいる。そのとっかかりとして、收藏品をいくつかネットで見せていただけないかとおもう。また、双方向のやりとりはネットを介してでも出来るので、障害者対応の面で是非検討いただきたい。

- ・委員

入場者で約80万人という数字が出ているが、いくつか区分されている。このトータルが基本数字という認識で良いか。私の館では、運営主体である市から出張講座等の人数については、カウントすべきでないと言われていて、現場と考え方が違っている。県の場合、外部の数も入れるという根拠があるのか、伺いたい。

- ・博物館

明確に規定したものはないが、十数年前に県の行財政構造改革を始めた際、美術館・博物館の利用者数を把握するにあたって、当館ではビジター数というものをを用いることとし、館外に出て行ったものについても計上することにした。他館はこのような計上方法になっておらず、統一された物はない。ビジター数が利用者数であるという認識をさせていただいている。

・博物館

国立科学博物館、科学みらい館なども、このことに頭を悩ませているが、来館者数を増やすことを考えるのは時代遅れであり、もうやめた方がよい。市の当局にも指導してあげた方がよい。

・委員

心強いご意見、ありがとうございました。

・委員

金曜日・土曜日のレイト開館について、実施の可能性はあるか。

・博物館

確かに、そういう取り組みを行っている館があることは聞いている。ここは県立なので、条例・規則との兼ね合いがあるので、出来ないことはないと思うが、計画を立て協議しながら進める必要がある。

・博物館

実は以前、夜間開館を全国に先駆けて実施したことがある。ただ、近隣ニュータウンの住民特性として、大阪・神戸に勤務する方が多いことから、開館時間中に帰宅できない方がほとんどで、ちょっと早すぎたのと、地元住民の生活行動を理解しないで、進めてしまったので、期待した効果がなかった。

今は、まちが成熟してきているので、次はうまくいくかもしれない。

・委員

プレミアムフライデーとレイト開館を組み合わせた取り組みを、されている館もあるように伺った。それについての計画はどうか。

・博物館

常時の夜間開館は行っていないが、夏の夜に当館隣接の公園で虫の声を聞くセミナーを開催することはある。また、夏休み等学校の長期休業期間は、来館者が多く見込まれることから、休館日なしで開館する取り組みを行っている。

・委員

市役所では2年ほど前から、月1回夜にロビーコンサートを実施している。固定客もある。もし、そういう機会があれば、市としても広報等で協力したい。

・委員

お願いがある。今年度、県政150周年記念事業として、国際シンポジウムが開催され、私も参加した。自校の生徒にも聞いてもらいたかったが、時期が12月上旬で試験期間と重なってしまい、参加できなかった。中・高生には貴重な体験の機会となるので、次回実施の際は時期の考慮をお願い

いしたい。

- ・委員

中期目標について、伺いたい。指標を立てるのは難しいと思うが、重点目標の内連携事業について、達成率が高いものと低いものがある。高いものは、思ったよりも要望が多かったということなのか、逆に低いものはどうしてこうなったのか、お教えいただきたい。

- ・博物館

達成率が高いものは、幼稚園・保育所へのキャラバン事業を、今年度は重点的に行ったので、高くなったと考えられる。逆に低かった連携事業は、過去の実績に基づいて計画は立てている。集計した時点では数値は低いですが、正しく集計が出来ていなかったのかもしれないし、1月以降に実施されているものもあるので、例年目標値程度の件数はあるので、数字は伸びてくると思う。

- ・委員

博物館に勤務しているとき、同じような協議会の場で委員の方に、「継続して事業が行われていることに意義があるものもあるし、指標が全て右肩上がりである必要はない。」と仰っていただいたことがあった。まさに、その通りだと思ったことがあり、質問させてもらった。

- ・委員

今の話と関連するが、ひとはくの活動が正しく評価できないか、中期目標に館の活動の実態をうまく反映できないかと、勤務しているときから思っていた。館外とのネットワーク形成は、しっかり出来ているのに数値化できないとか、アウトリーチ等で展示を見せるノウハウを持っているのに、館内展示が30年近く変わらないとか、そのギャップを感じた。

館職員に言っても仕方ないかもしれないが、外から見るとそんな印象を受けた。

- ・博物館

中期目標について有意義なご指摘、ありがとうございます。数値目標や質的評価を行うのが、非常に難しいと痛感している。

質的評価については、別の方法でやりたいと思っている。今回はその報告は出来ないが、次回以降でご報告できればと思っている。

- ・博物館

展示が陳腐化しているという指摘があった。県内の社会教育施設で言うと、平成19年に歴史博物館のリニューアルと、考古博物館開館があった。もう、10年ほど経過しており、それらでも展示が陳腐化している。

そう考えると、ひとはくの30年というのは、すごいことだと思う。先に委員から指摘があったが、博物館が持つ莫大な資料を、導入部分としてホームページに掲載する取り組みをしているのは、当館のすごいところだと思う。

今から収蔵庫の話が出てきますが、収蔵庫と絡めて本館の中身についても、皆さんと検討してい

きたい。

- ・委員

昨年、収蔵庫を見せてもらった。良いとはいえない環境下で収蔵品が収蔵され、あふれかえっていたのを見て、残念に思った。

話を聞いた中で、個人収集家からの寄贈申し出もあろうかと思うが、その人たちとの連携はどうなっているか。

また、三田市でも小中学校の統廃合が言われるほど、少子化に向かっている中で、空き教室に当館の資料を貸し出して展示し、これらがひとはくから来ていることをアピールしてはどうか。

- ・博物館

これからの寄贈については、研究員個人の専門分野に合わせて、ネットワークを作っていく、特に兵庫県下のものについては、当館に収蔵させていただきたい旨、お願いできる状況は作っている。

実際、頌栄短期大学が生物学教室を閉鎖する際、県下で 70%を占める標本の預かり先として、当館が名乗りを上げ収蔵することとなった。

以前は、収蔵品は全て永久保存する方針だったが、近年規定を変え、活用できそうなものについては、こちらに取り扱いを一任してもらえるようにした。

- ・委員

新収蔵庫の検討委員として、会議に参加している。館のリニューアルにも繋がるのではとの期待も込めて、ワクワクして臨んでいる。

近年、ニュータウンの住民層が変化し、高齢化が進んでいる。特に、フラワータウンについては、地区計画の見直しが必要だと考えている。ひとはくにも、観光面で協力いただけないかと思う。博物館のあるまちとして、フラワータウンの賑わいが作り出せないかと考えている。

- ・博物館

おっしゃるとおりである。

六甲山活性化の議論の中で、行政がハードの整備ばかりしてきたので、対応が出来ない状況が起こっている。ぜひ、ツーリズムの運営の仕組みから、一緒に検討出来ればと思う。

- ・委員

地元三田市の小学校が、今までひとはくを活用できなかった反省を踏まえ、理科部会を中心に教員のセミナーへの参加に取り組み始めた。

また、中学校の自由研究作品展は、今までもひとはくで開催していたが、それに加えて市内小学校の理科・生活科の作品展も、来年度からひとはくで開催する運びとなった。いろんな方に見ていただきたいのと、専門的視野から意見をいただきたいことから、ひとはくで開催できるのは、本当にありがたいし、いろいろ指導をいただきたい。

- ・委員

共生のひろばについての話題が上がっていないが、このイベントは若いアマチュア研究者が集まって、日頃の研究の成果を発表する大事な場となっている。

昨年末、「ひょうご環境担い手サミット」が開催された。これも、研究発表を主にやっているのは、高校生たちやアマチュア研究者である。これらと連動して、若いアマチュア研究者を育てていく活動が出来ないか、そしてひとはくがその橋渡し役になってもらえないかと思う。

私が携わる森林ボランティア協議会も、会員減少対策や次世代の人材育成も考えて、環境学習に力を入れていこうと活動している。しかし、学校現場に受け入れ体制がないので、困っている。もう少し門戸を広げてほしい。こちらも、こんなことをしているというモデルを作って提示できるよう、努力したい。その時は、ひとはくに協力をお願いしたい。

- ・博物館

「担い手サミット」は面白い事業で盛況だが、3年目の今年度で打ち切りの予定だった。

抗議したら、来年度から名前を変えて実施することになった。ただ、共生のひろばとダブっている部分が多いので、棲み分けが必要かなと考えている。

また、ひとはくでは「地域研究員制度」というものを作って、研究員の先生方と地域の人とが連携を組んで研究できるようにしている。

環境学習については、兵庫県では幼少期から始まって、小学校3年生で環境体験授業、小学校5年生で自然学校、中学校2年生でトライやる・ウィークで取り組んでおり、継続性を持たせているとの認識である。

ところが、学校から歩いて行ける場所には足繁く通えるが、委員が活動されている六甲山や、東おたふく山などは遠過ぎるし、交通費も出ないので行けない。それらの議論は、もう始まっていると思うので、子どもたちが安全に移動できる手段さえ出来れば、東おたふく山にも足を運んでもらえとおもうので、応援する。

- ・委員

幼児教育の面から申し上げる。今までのお話で、体験学習や双方向でのやりとりについて、重要であるとの認識だと理解しており、心強く感じている。今の子どもたちは、生まれたときからバーチャルの世界が目の前にある時代に生きている。しかし、大事なものは本物を目の前にして、実際に体験したり触れたりすることだと思う。

先ほどお話しがあった、寺院での取り組み（レガシー事業）などは興味深い。現場でしか体験できない、匂いや肌で感じる空気などは、目で見るだけでは分からない。体験すること場を、大人が責任を持って設けていかなければと思う。

それから、アウトリーチ事業について、移動博物館による幼稚園・保育所へのキャラバン事業があるが、申込制と聞いている。ならば、落選するところもあろうかと思うが、倍率はどれくらいか。また、地域格差は生じているか。

- ・博物館

残念ながら、地域格差はある。都市部からの申し込みは母数が多いため、落選も多くなる。また、

当館への来館が難しい遠隔地の幼稚園・保育所については、できるだけ重視しようと考えている。中期目標の指標にも、地域展開度というものを新たに設定した。県内の旧町単位で、どれだけ当館主催の事業が出来たかを示すものである。この数字をできるだけ上げるべく、努力する方針である。落選の問題については次年度以降、今年度落選した所を重点的に、公募にせず赴くことも検討している。

体験を重視する学習への取り組みについては、当館も重要性を認識している。博物館の強みは、本物を持っていることなので、できるだけ外に出向いて、見て触れて感じてもらおうと思っている。

また、来年度から県の環境政策課と連携して、子どもたちとのコミュニケーション総量を増やし、環境体験学習事業が進められるよう、専門職の配置を予定している。

- ・ 委員

ホームページについて、お願いしたい。ユニバーサル情報について、もう少し詳しく載せてもらえないだろうか。団体利用のところに、障害者用駐車場の案内は確認できたが、介助犬やバリアフリーなどの情報について、充実を図ってほしい。特別支援学校等が来館を検討する際、ホームページを参考にされると思うので。

- ・ 博物館

当館では、予約なしでお越しになる団体を「当日団体」と呼んでいる。その半数以上が障害をお持ちの方の団体である。高齢者や子ども会などの来館も多く、その数は年々増加している。ホームページへの案内は今後の課題であるが、来館者の情報源として口コミで来ていただいている方も多いと推測する。それらを踏まえて、実際に出来る対応を検討したい。

- ・ 委員

新収蔵庫について、完成の暁には収蔵品の入れ替え作業を行う必要があると思うが、一般の方も一緒に出来れば、楽しいと思う。ボランティアかもしれないが、ツアーを組んでやってもらう方法もありかと思う。観光やインバウンド対策としても面白いし、最近は来ていただいた方々をどうおもてなしするか、兵庫県であれば県内の魅力をどう示していくか、という着地型観光が注目されている。会社としては、それを考えるのが仕事である。その魅力の一つとしてひとはくも入れたいので、協力できることがあればと思う。

また、バリアフリー情報については、旅行業者にとってはとても重要な要素である。これがないと、訪問先として検討する際不便なので、充実を図ってほしい。

- ・ 委員

新収蔵庫の話があった。3,000 m²で検討されているが、これを30年かけて埋めていこうということだが、すぐには満杯にならないだろう。ということは、しばらくは空きスペースがあるということなので、そこを上手に使うような方策を検討いただければ、昨年委員会で話し合った、新しいコンセプトの収蔵庫ができあがると思う。

・委員

当館には、県立大学から17名の教員が研究員として所属している。そういう意味では、大学としてもどのような貢献が出来るか、検討していきたい。

・委員

レガシー継承・発信事業は、面白いと思う。文化的なストックの場を、自然史系ミュージアムのスタッフが、いかに料理するのが興味深かった。涅槃図の展示は面白かったが、あれに出てくる動物などは、誰が考えたのか。

・博物館

委員会に属する、全国10館の自然史系博物館のメンバーが、知恵を持ち寄って考えた。

・委員

兵庫県発祥の地に初代県庁舎を復元しようという事業がある。文化財でも何でもないので、自由に使えるとは思いますが、何十年もすると使い道が分からなくなると思う。

最近、国が観光庁を中心にMICE※1でユニークベニュー※2を一生懸命探している。そういった時にレガシー継承・発信事業は、ユニークベニューそのものだと思って見ていた。なので、ひとはくにはどんどんチャレンジしてほしいと思う。それらに取り組んでいると、本館の展示もちゃんとしないと、本庁の人も分かってくるのではと思う。

・委員

新しい学習指導要領に、主体的対話的で深い学びの項目があり、「深い学び」という部分については、非常にハードルが高くなっている。その中で、SDGs※3や17のターゲットが挙げられている。「陸・海の豊かさを守ろう」という項目においては、中高生がさらに一步踏み込んだ学習をするために、この博物館の活動がとても生きてくるのではと思う。その意味でも、また学校現場に協力いただければと思う。

・委員

SDGsは、中期目標に文言を入れておいた方が良い。先駆けて取り組んでいますよ、くらいの感覚で。

・委員

新聞で「ひょうごスラビア」という言葉を見た。兵庫の多様性を短くまとめた、良い言葉だと思った。このように、ひとはくを端的に表すような、目玉となる言葉づくりや、テーマが出来ないかと思う。

・委員

そとはくやゆめはくなど、～はくとネーミングするのが得意なようなので、「～はく」という言葉で展開できるのかもしれない。

・博物館

レガシー事業について話があったが、博物館に関する国の主管が、文部科学省から文化庁に移ると同時に、京都に移転した。博物館について何もわからない人が、文化庁で対応しているので、大変なことが起こっている。

ただ、京都に移ったことにより、ソフトがたくさんあることから、レガシー事業などについてはよく分かっている。そう思うと、国の人も考え方などだいぶ変わってきたと思う。

これからは、地域主義と国際主義について、棲み分けをどうするか考えていかないといけない。バーチャルで国際的な博物館とリアルで内向きな博物館、この棲み分けをどうするかが課題となってくる。

それから、ミュージアムのある町、インバウンド対策については、三田市や神姫バスさんに重点的にお願いしたい。

本日は、様々なご意見ありがとうございました。

※1：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

※2：会議やレセプション開催時に、歴史的建造物や公的空間等で特別感や地域特性を演出できる施設のこと。都市の差別化を図るツールの一つとして活用が進んでいる。（以上、出展：観光庁 HP）

※3：持続可能な開発目標のことで、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。（出展：外務省 HP）